

美術館 PR 用切手について

浦添市美術館の魅力を知ってもらうための切手を作成しました。主に当館が発送する文書に貼り付けて使用する予定です。その切手が貼られたはがきや手紙が届いたら、周りの人に自慢してもらえると幸いです。

デザインとしては浦添市美術館の建物外観や当館所蔵品の漆器、絵画など8種類を採用する予定です。漆器は古琉球から近代まで網羅した優品6点を採用し、それぞれには螺鈿や箔絵、堆錦などさまざまな技法が用いられているところが魅力です。また絵画に関しては葛飾北斎が描いた「琉球八景」の中から1枚採用します。どのデザインになるのかはお楽しみです。



くろうるしぶどうりすらでんはくえはこ
黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵箱

現在採用されている漆器のデザインから2点を紹介します。1つ目は「黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵箱」です。あら目の貝時地に薄貝と赤金、青金の箔を併用して蓋、身とも葡萄文で埋めつくし、蓋表には三匹の栗鼠がいきいきと動き回っ

ています。2つ目は「黒漆雲龍螺鈿大盆」です。火炎宝珠を中心に5爪の龍と瑞雲を配し、周囲の鏝には団扇や巻物・払子・羽扇で飾られています。特に5爪の龍は皇帝を表す最高の龍とされています。いずれの文様も縁起の良いものです。



くろうるしうんりゅうらでんおぼん
黒漆雲龍螺鈿大盆

ツイッターはじめました！

当館では利用者への情報発信を目的としてホームページ、フェイスブックを利用しておりますが、この度、新たにツイッターアカウントを開設いたしました。

今後はツイッターの方でも、美術館の「今」を発信していこうと思っておりますので、ぜひチェックしてみてください。

今後とも浦添市美術館をよろしくお祈いします。

Twitter



うるしの日体験教室 (全1回)

11月13日うるしの日にあわせ、堆錦技法を体験し、オリジナルのコースターを作ります。

【募集期間】令和2年10月17日(土)~31日(土) 電話受付のみ

【開催期間】令和2年11月14日(土) 午後2時~4時

【定員】5~15名(予定)

【講師】後間義雄氏(沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者)

【費用】3,000円

◇実習教室◇

◆紅型教室(全7回)

【内容】紅型の技法を学び、オリジナル作品とマスクを作る。

【募集期間】令和2年9月8日(火)~9月20日(日) 電話受付のみ

【開催期間】令和2年10月3日、10日、17日、24日、31日

【定員】5名(全7回参加できる人) 11月7日、21日

【講師】千葉聖美氏(紅型工房 羽衣地)

【費用】3,000円

◆きゅう漆教室(全5回)

【内容】漆工芸の技法の一つ、きゅう漆技法で銘々皿をつくる。

【募集期間】11月

【開催期間】12~1月

【定員】5~10名(全5回参加できる方)

◆螺鈿教室(全6回)

【内容】漆工芸の技法の一つ、螺鈿技法で銘々皿をつくる。

【募集期間】1月

【開催期間】2~3月

【定員】5~10名(全6回参加できる方)

※すべて電話で受付を行い、当選者にのみご連絡いたします。

※すべての行事の日程は都合により変更になる場合があります。

浦添市美術館
URASOE ART MUSEUM

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9番2号
TEL:098-879-3219 FAX:098-878-1221
http://museum.city.urasoe.lg.jp/



HP



Facebook

開館時間：9時30分~17時(金曜日のみ19時まで)

*入館はいつでも閉館30分前まで

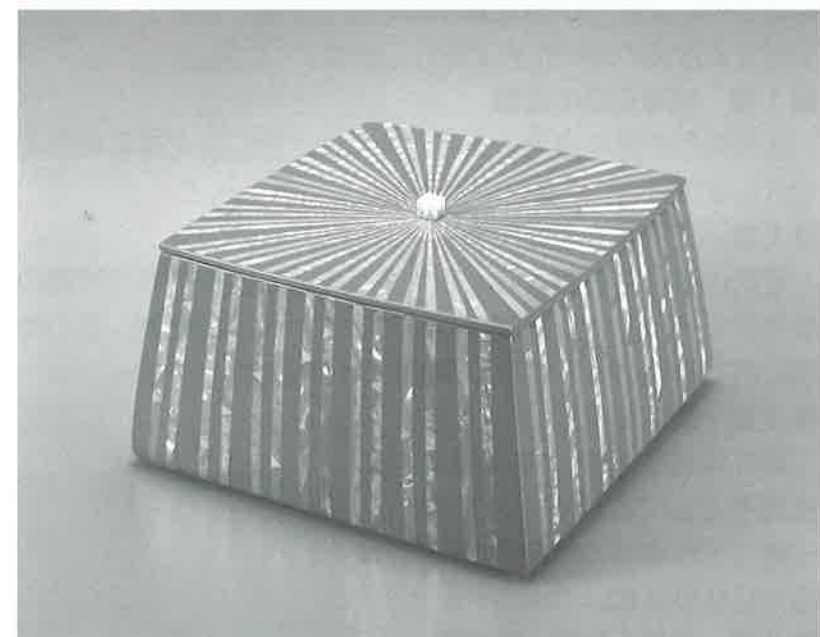
休館日：月曜日(祝日にあたる日は開館)

*年末年始(12月28日~1月4日)、その他臨時休館有り



浦添市美術館ニュース 2020年9月1日(年2回発行)

きよらさ：「美しい」「きよらかさ」を表す琉球の古語



令和2年度 第2期常設展 展示作品

「朱漆螺鈿飾箱」

作品解説

鮮やかな朱漆塗りの箱です。蓋は放射状、身側面は縞状に貝があしらわれています。朱螺鈿は古琉球期に見られる手法として知られており、作者もそれを意図したと思われます。

箱の側面には金箔を裏に貼った三角形の貝が所々に配置され、アクセントとなっています。また蓋のつまみには方形に加工した夜光貝を用いるなど、こだわりが光る作品です。

作者の故・前田孝允氏は沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者でした。琉球王国時代の漆器の研究や首里城復元に携わる一方、デザイン性豊かな作風で、主に螺鈿の作品を制作したことで知られています。

浦添市美術館

URASOE ART MUSEUM

浦添市市制施行 50 周年記念展 令和 2 年度第 2 期常設展
「琉球漆芸の今」－ 受け継がれる技－

浦添市市制施行 50 周年を記念した今年度常設展の第 2 期目は、現代の漆芸に焦点を当てます。沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者をはじめ、現代沖縄で活躍する漆芸家の作品を中心に約 90 件を展示し、伝統を受け継ぎつつ新たに展開する沖縄の漆の世界を紹介します。

第 1 室 琉球王国の漆器

王国時代の琉球漆器の美と、時代とともに変化する特徴を紹介します。

第 2 室 近現代沖縄の漆器

近代以降、寄留商人による大手漆器店で製作された沖縄の風物をモチーフにした漆器やモダンデザインの漆器、この時代に名を馳せた名工による漆器を紹介します。

第 3 室 伝統の継承

現代沖縄を代表する琉球漆器の技術者として、沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者 7 名の作品を紹介します。

第 4 室 創造と発展・巧の技

この部屋では公募展で活躍する漆芸作家や伝統工芸士、沖縄県工芸士に認定された方々の作品を紹介します。

第 5 室 漆の可能性

平成 24 年新設の沖縄県立芸術大学漆芸分野を巣立った若手作家の作品や、民間企業による新たな事業で製作された漆器を紹介します。

【会 期】令和 2 年 9 月 23 日(水)～令和 3 年 1 月 17 日(日)

【観覧料】一般 200 円 (160 円)

大学生 130 円 (100 円)、高校生以下は無料

※() は 20 名以上の団体料金

※65 歳以上、モノレール 1 日乗車券使用者は団体料金

【会 場】常設展示室

※ほか毎週日曜日にはギャラリートーク開催

◎講座及びギャラリートーク参加は本展の当日観覧チケットの提示が必要です。



朱漆蝶菊唐草沈金文庫

浦添市市制施行 50 周年記念 尚寧王没後 400 年
「尚寧王展 - 浦添より首里に照り上がった国王 -」

【会 期】令和 2 年 10 月 16 日(金)～11 月 15 日(日)

【観覧料】常設展と共通料金 (一般 200 円)

【趣 旨】

市制施行 50 周年を迎える令和 2 年(2020 年)は、「浦添より首里に照り上がった」王として知られる第二尚氏 7 代目国王尚寧が、1620 年に死去して 400 年の節目にもあたります。これを機に浦添ようどれ調査で出土した石灰岩製白石厨子を一般公開します。

尚寧は第二尚氏 3 代目国王尚眞の長子、尚維衡を祖とする浦添家の出身で、尚維衡のひ孫にあたります。在位中に首里城から浦添城までの道の整備や、浦添ようどれの改修を行っています。輝かしい功績がありながら、薩摩藩から侵攻され、琉球王国が敗戦となった際に、捕虜となって薩摩へ連行されてしまいました。さらに江戸まで連行され、将軍に謁見しています。尚寧は没後、王族の墓である首里の玉陵ではなく、浦添ようどれの東室に葬られています。

展示構成として 2 本立てとなっており、まず「尚寧の生涯」について、尚寧ゆかりの文化財や同時代・後世の史料などを用いて紹介します。尚寧年譜や尚寧御後絵(肖像画)のパネル、古文書・典籍(複製・影印・活字)、浦添城の前の碑残欠、初期明朝系瓦などを展示します。

次に「尚寧と浦添ようどれ」について、尚寧が改修した浦添ようどれから出土した石灰岩製白石厨子展示を中心に紹介します。他にも尚寧王妃・阿庇理屋恵按司加那志誌板(記録を記した板)やようどれの碑文残欠、ようどれ御墓番家伝来の香炉、浦添ようどれの復元模型を展示します。



浦添ようどれ

お披露目
「石灰岩製白石厨子」

令和元年度新収蔵品展・
葛飾北斎 琉球八景展

今年 5 月開催を予定していた「令和元年度新収蔵品展」は、新型コロナウイルスの影響により中止となっていました。時期を改めて開催いたします。

本展では、丸櫃や食籠など 7 件の購入作品、3 件の寄贈作品のうち 2 件を展示します。そのうちのひとつ〈朱漆紋入牡丹唐草箔絵八角食籠〉は、朱漆塗りに箔絵技法で牡丹唐草と家紋と思われる文様が描かれた華やかな作品です。紋入りでなおかつ台を伴っている点が珍しい作品です。



朱漆紋入牡丹唐草箔絵八角食籠

また、同時期に「葛飾北斎 琉球八景展」も開催いたします。〈琉球八景〉とは江戸時代後期に活躍した浮世絵師・葛飾北斎が制作した 8 枚揃いの錦絵。冊封使の公館である天使館周辺の景勝地を詠んだ漢詩を基にして描かれています。

制作途中で摺られる校合摺りも合わせて展示しますので、この機会にぜひご覧ください。



琉球八景「中島蕉園」

現在的那覇市泉崎付近にあり、蕉とは芭蕉のことをさします。中央奥には富士山を思わせる山が描かれています。

【会 期】令和 2 年 12 月 18 日(金)～1 月 11 日(月)

【会 場】企画展示室 1・2

【観覧料】常設展と共通料金 (一般 200 円)